

# 松川浦におけるアサリ稚貝発生状況と減耗について

福島県水産試験場 相馬支場

## 1 部門名

水産業－栽培漁業－アサリ

## 2 担当者

岩崎高資

## 3 要旨

松川浦において2011年6月～2012年12月の間、毎月1回の頻度で殻長15mm未満のアサリ稚貝の採捕調査を実施した。採集個体数から分布密度を推定し、過去の知見と比較して発生水準、減耗時期、着底位置を明らかにした。

- (1) 1997年以降密度調査を継続して実施してきた6定点(和田・川口前・揚汐・瀬方南・地島南・大洲東)における6月～7月の稚貝平均密度を過去の結果と比較することで2010年級、2011年級の発生水準を推定した(図1)。2010年級の密度は4.9個体/m<sup>2</sup>と過去15年級で最も低く津波により減耗したものと考えられた。一方、2011年級の密度は126個体/m<sup>2</sup>と過去15年級で9番目の密度であり、発生水準は低～中水準と考えられた。2011年級の密度は2008,2009年級を上回っており、松川浦におけるアサリ再生産への津波の影響は少なく、発生水準は平年並みまで回復したものと考えられた。
- (2) 2012年の稚貝調査は13定点で行い、1mm目合いでふるった後に稚貝を計数した。稚貝密度の月変化を図2に示す。殻長1mm以上の2011年級の密度は2011年12月から増加し、2012年2月に最も高く567.6個体/m<sup>2</sup>となった。2012年3月～5月は326.2～365.3個体/m<sup>2</sup>と安定して推移したが、2012年6～7月にかけて低下し、7月には92.7個体/m<sup>2</sup>となった。2011年級は2012年の6～7月にかけて大きく減耗したものと考えられた。
- (3) 2011年級の稚貝密度は例年通り湾口部付近の定点で高く、西部・南部の定点で低かった。地点別の密度を過去のデータと比較すると、例年分布密度が低かった地島南・宇多川河口では過去の密度に比べて高くなったが、例年分布密度の高い川口前・揚汐・瀬方南の密度は低いことから、アサリ稚貝の着底に適した地点は湾口部付近の狭い範囲で変化した可能性が示唆された。

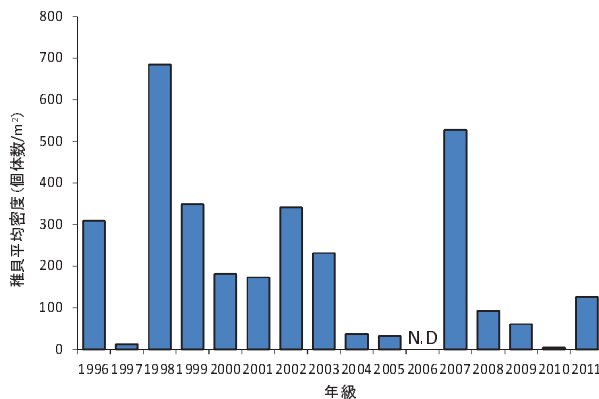


図1 年級別稚貝密度

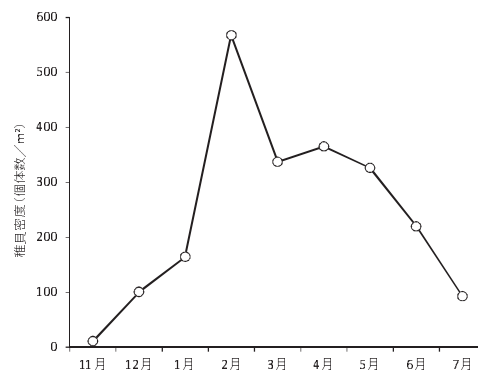


図2 稚貝密度の月変化  
(2011年11月～2012年7月)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～27年度
- (2) 研究課題名 松川浦の増養殖の安定化に関する研究
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

## 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成8年度～22年度水産試験場事業概要報告書